

つながろう

OKITAMA

機関紙



連合置賜

2018年2月20日

2018春闘特別号

連合山形置賜地域協議会

発行責任者:佐藤浩昭

〒992-0042

米沢市塩井町塩野 1-1

米沢地区勤労者福祉会館内

2018春季生活闘争開始!!

「底上げ・底支え」「格差是正」でクラシソコアゲ!



すべての労働者の立場にたって 働き方を見直そう!

【格差改善・底上げと共に
長時間労働是正の取り組みを】

連合山形置賜地域協議会

議長 佐藤浩昭



日頃からの連合山形置賜地域協議会の運動に、ご理解とご協力を頂いている構成労組の組合員の皆様に御礼を申し上げます。

さて、2018春闘は主要企業の労使が意見を交わす「労使フォーラム」が行われ、事実上の闘いがスタートを切りました。そして2月中旬からの要求書提出、3月中旬をメドとした集中回答の流れとして闘いが本格化されようとしています。

連合置賜も春闘を取り巻く情勢と連合方針の全体化に向け「2018春闘学習懇談会」を2月2日・3日・9日・10日の4日間に渡り、置賜内各地域で開催してまいりました。

今春闘の焦点は、デフレ脱却に向けた賃上げと長時間労働是正を柱とした働き方改革への対応であります。とりわけ同一労働・同一賃金は非正規労働者の皆さんが期待を持たれている対応であると認識をしています。

これから本格化する春闘にあたり大切なことは、各労組が提出する「要求書」の内容を一人一人の組合員に全体化を図り、全組合員で労使交渉を支援する体制を作り上げていくことです。労働組合があつてこそその「賃上げ」であり「時短」であることを、組合員の皆さんをはじめ未組織労働者の方々に訴えていく必要があります。

連合置賜も世論形成をはじめとした各種行動を精一杯取り組んでまいります。

2018春闘勝利に向け共に頑張りましょう。

2018連合置賜春闘学習懇談会を各地区で開催しました

春闘における連合方針と取り巻く情勢の学習、そして中小労組からの参加者との意見・情報交換を行う場として一昨年度から実施しております「連合置賜春闘地域フォーラム」を、今年度も2月初旬に集中して4地区に出向き開催しました。

2月2日（金）には小国地区、同月3日（土）に米沢地区、同月9日（金）に東置賜地区、そして同月10日（土）に西置賜地区でそれぞれ開催し、延べ24組合40名の参加をいただきました。



【2月2日（金）開催 小国地区】



【2月3日（土）開催 米沢地区】



【2月9日（金）開催 東置賜地区】



【2月10日（土）開催 西置賜地区】

今次春闘を取り巻く情勢については、特に働き方改革に関する課題について意見が交わされ、現在国会で議論中という事もあり大いに関心を寄せるテーマとなりました。また、自組織として取り組むにあたっての課題や方策などについて、参加者同士での情報交換も積極的に行われました。

学習会終了後に引き続き行われた情報・意見交換懇談会でも、ひざを交えて沢山の情報交換が積極的に行われ、昨年度同様、大変有意義な企画となり得る事が出来ました。

例年2月下旬には加盟上部組織等の春闘会議や諸行事日程と重なり出席が叶わない事例も確認された事から、幹事会の場で議論を重ね本取り組みの見直しを図り、今年度は各地区にこだわらず参加出来る日程への参加を可能とした結果、大変多くの組合より参加いただく事が出来ました。

引き続き、連合置賜地協の重点活動として、内容の充実に努めながら開催して参ります。

2018構成組織春闘情勢調査結果のご報告

2013年度より毎年ご協力いただいております置賜地協構成組織の春闘情勢調査につきまして、今年度も2018春季生活改善闘争を取り組むにあたり企業情勢や各種春闘方針についての回答をお寄せいただきましたので、以下にご報告申し上げます。

また、別掲にて2013年度からの各項目における推移も併せてご報告致します。

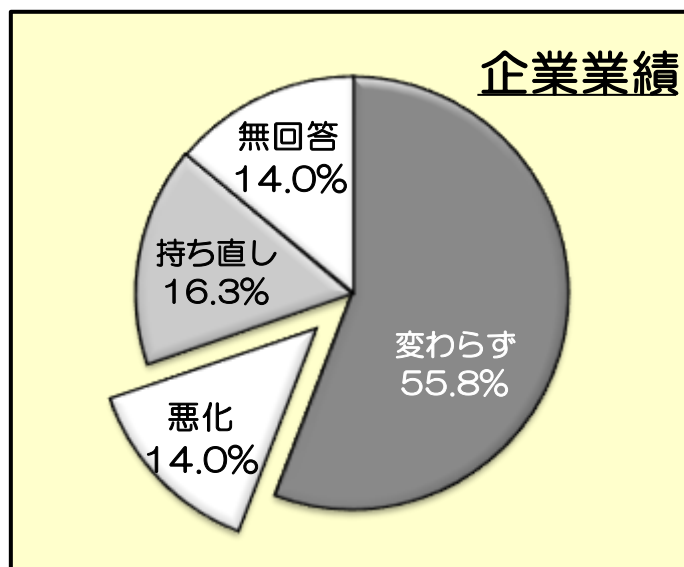
春闘取り組み準備の大変お忙しい中ご協力いただきました構成組織の皆さまに対しまして、改めて心から感謝申し上げます。

| 【参考値】 | 置賜地協構成組織数 | 回答数 | 回答率（昨年比） |
|-------|-----------|------|--------------|
| | 63組合 | 43組合 | 68.3%（1.5%減） |

企業業績について

昨年同時期と比較した自組織の企業業績については、「変わらず」と答えた組合が約半数の55.8%（昨年比10.3%増）を占めた。但し、「変わらず」の中身としては、『昨年同様変わらず悪い』という回答も含まれる為、一概に業績が安定しているとは言い難い。また、「持ち直した」と答えた組合は16.3%（昨年比4.2%減）となった。

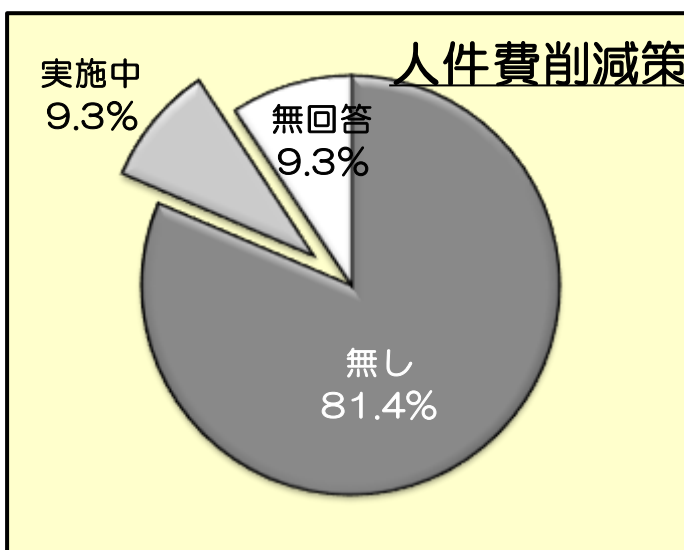
一方、「悪化した」と答えた組合が14.0%（昨年比4.2%減）となっており、昨年度に比べれば若干の改善方向とも受け取られるが、以前として置賜地域における企業業績の地域間格差が進んでいる傾向でもある。



人件費削減策について

企業業績の悪化に対する会社施策として、賃金カットや新規採用の抑制、営業拠点の再編等における人件費削減策の実施有無については、「無し」と答えた組合が81.4%（昨年比8.7%増）となった。

一方、何らかの施策を「実施中」と答えた組合は9.3%（昨年比6.6%減）となっており、「今後協議予定」という回答は無く、現時点では人件費削減策を講じざるを得ない組合は減少傾向にあると思われる。但し、以前として「実施中」である組合が1割程度ある事は今後注視していかなくてはならない。

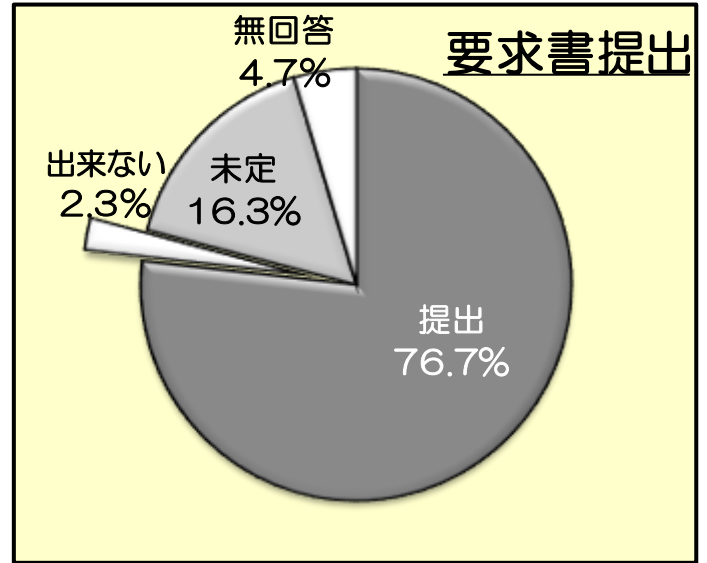


要求書の提出について

2018春季生活闘争を取り組むにあたり、「要求書を提出する」と答えた組合は、全体の8割弱となる76.7%（昨年比2.8%減）となり、残念ながら減少している。

また、「提出出来ない」と答えた組合が昨年同様2.3%あり、要求書提出の重要性は認めつつも、交渉要求が極めて厳しい組合もある事から、様々な角度からの支援が急務であると感じた。

尚、「未定」の組合が16.3%（昨年比0.4%増）となっているが、調査時期が1月中旬だった事が影響はしているものの、現時点で労使交渉を行う状況になっていない表れとも受け取れる。

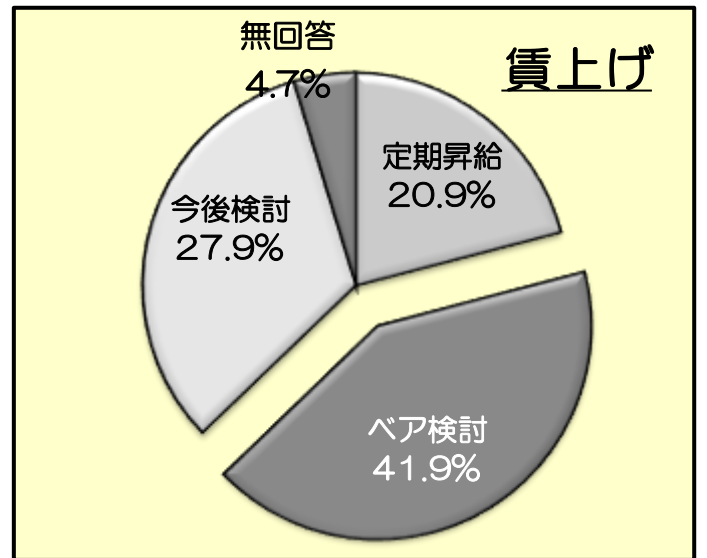


賃上げの取り組みについて

最後に、ベースアップ等の賃金引上げの取り組みについては、「ベア検討」が41.9%（昨年比3.3%増）となり、昨年に引き続き底上げ・底支え、格差是正に向けた要求方針が進められる姿勢と見受けられた。

但し、「定期昇給（賃金構造の維持）」と答えた組合が20.9%（昨年比7.3%増）となっており、賃金改善要求が難しい状況下にある組合が増加傾向にある。

尚、「今後検討」と答えた組合が27.9%（昨年比13.0%減）となっており、自組織企業決算の見通しや大手労組などの動向を見据えた上での判断を強いられている傾向が伺えた。



【補足説明】

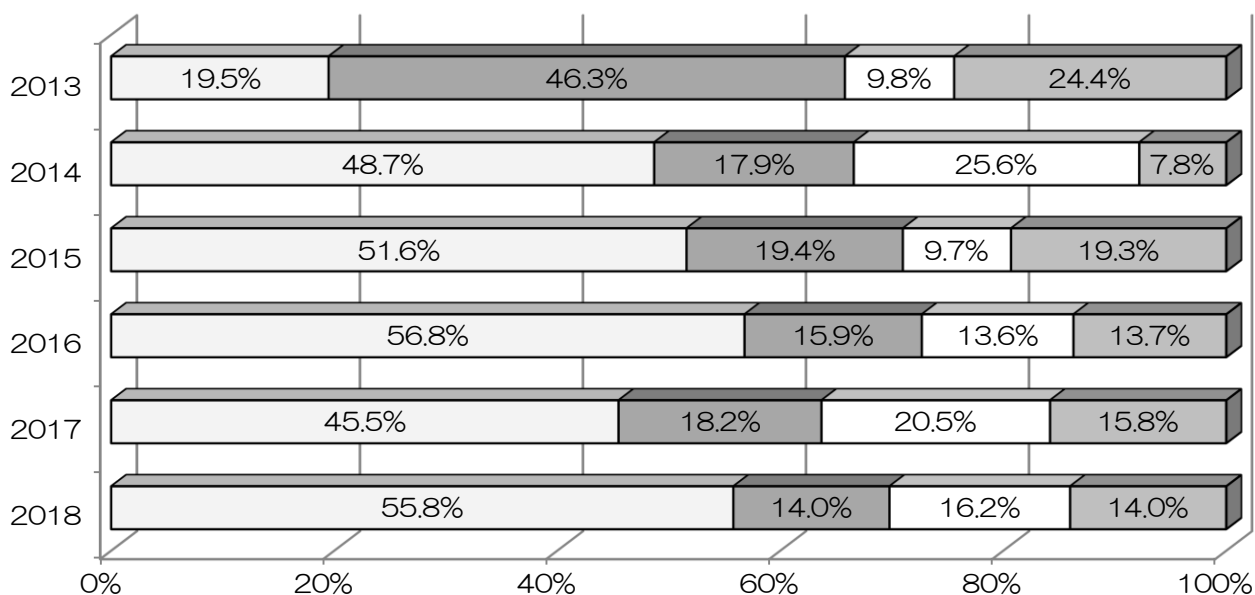
本組織情勢調査は、1月4日付けで各地区における春闘学習懇談会開催案内と併せ各組合へ送付し、1月29日を期限として寄せられた回答を基に集計した結果を記載しております。

従って、当該期間中、自組織はもとより加盟産別としての要求方針も確定していない中ご回答いただいた内容も含まれている事から、調査結果に対する見解はあくまでも参考程度に留めていただければ幸いです。また、それぞれの項目で「無回答」となっているそのほとんどは、春闘において交渉とせず秋闘が主である産別からの回答も含まれている為留意願います。

こういった背景を踏まえつつも、今次春闘における他労組の動向を参考にいただきながら、格差是正と働くものの幸せ追求に向けた取り組みを今後進めていただければと思います。（事務局）

【企業業績の推移】

□ 変わらず □ 悪化 □ 持ち直し □ 無回答



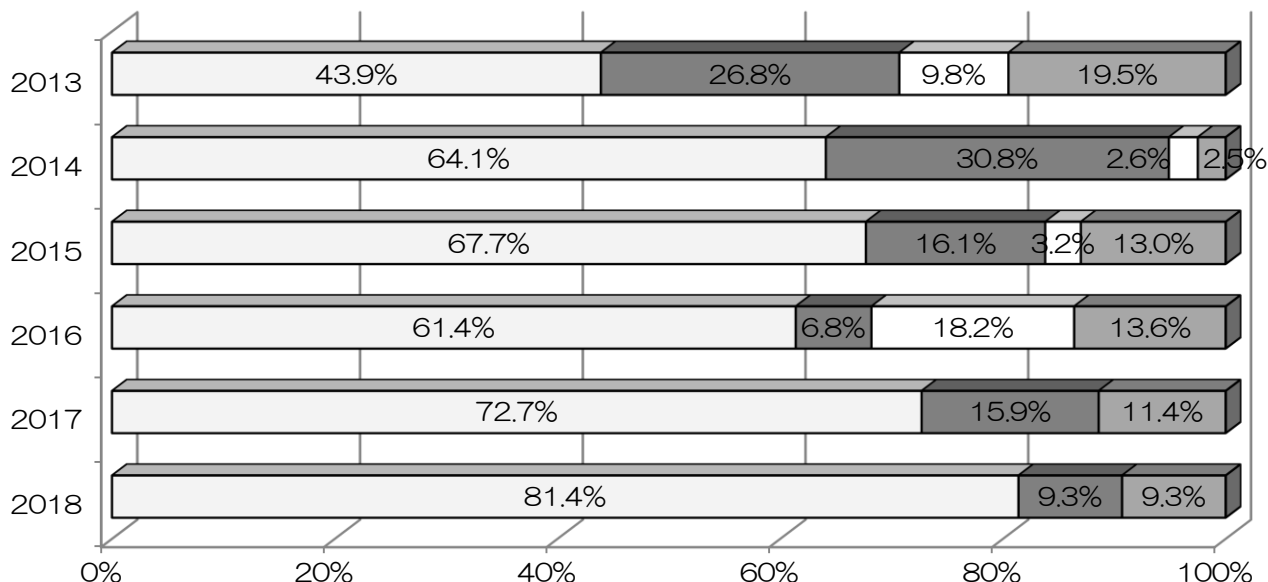
【過去6年間の「企業業績」に関する推移】

—業績改善の傾向はあるものの完全回復までは至らず—

- ・前年度と比較した企業業績としては、円安株高により大手企業の収益回復が出始めた2014年度以降、置賜地域の中小企業は改善の兆しを見せるものの、持ち直し傾向は減少し、回復していない、もしくは悪化傾向の企業が一部あり地域間での格差が解消されていません。

【人件費削減の推移】

□ 無し □ 実施中 □ 協議予定 □ 無回答

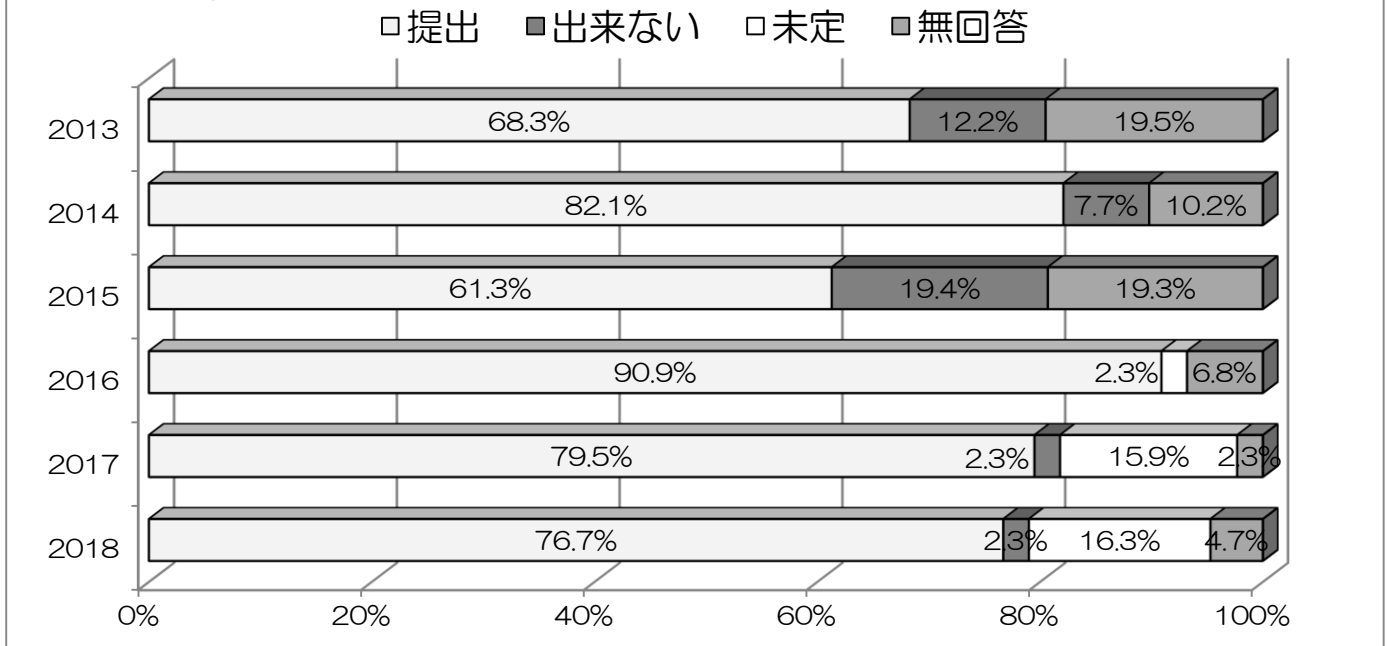


【過去6年間の「人件費削減」に関する推移】

—改善の兆しはあるものの働く環境は不安定なまま—

- ・業績悪化により、人件費削減等何らかの会社施策を受け入れざるを得ない状況の推移としては、徐々にその施策の解除もしくは見直しの傾向はあるものの、未だ賃金カットや新規採用の抑制等を実施中の組合も複数あり、不安定な労働環境が完全には解消されていません。

【要求の推移】

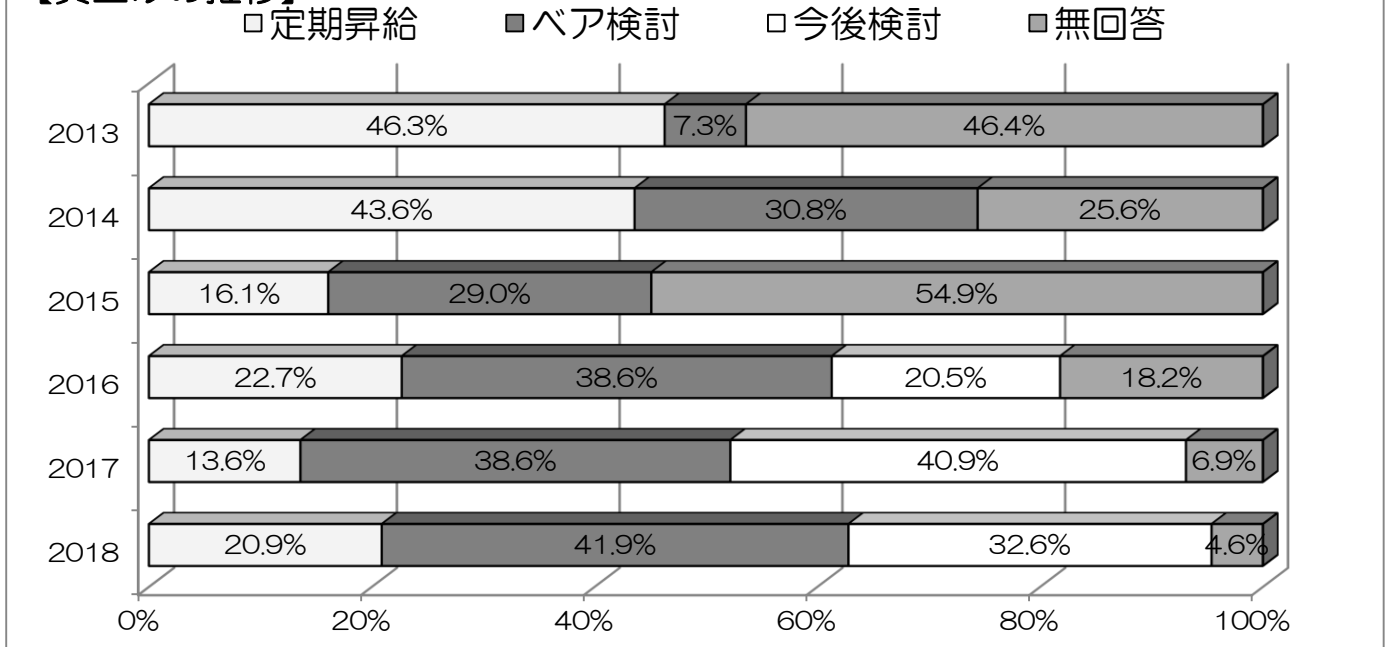


【過去6年間の「要求書提出」に関する推移】

ー要求書提出の重要性が増すものの慎重な姿勢も散見ー

・2015年度までは交渉の要求そのものを見送らざるを得ない組合が複数あったものの、賃金交渉以外の労働環境改善要求に対する重要性が増し、ほとんどの組合が要求書提出を実施しています。但し、一部には経営悪化により交渉出来る余地が無い組合もあり、更には労使交渉を慎重に判断せざるを得ない傾向も伺えます。

【賃上げの推移】



【過去6年間の「賃金の引き上げ」に関する推移】

ーベア要求は底堅く推移も先行きの不確実性が影響中ー

・ベースアップ等賃金の引き上げについては、人材確保や社会保障費へ対処すべく賃上げ要求を検討する組合は底堅く推移しているものの、先行きの不確実性が増している国内外の経済動向や自組織企業の採算悪化が起因し、定期昇給のみの要求に留め雇用の維持確保、もしくは慎重な判断を強いられている状況が続いています。

「知らないじゃすまされない！～無期転換ルールが始まります～」

2013年4月に施行された労働契約法第18条「無期転換ルール※」により、2018年4月1日から有期契約労働者への無期転換ルールの適用が始まります。

しかし、本制度の適用を前に雇止めの多発などが懸念されています。また、連合が2017年4月に実施した「有期契約労働者に関する調査」によると、当該有期契約労働者に本制度が周知されていない実態も明らかになっています。

連合置賜地協は、無期転換ルールの周知とその適正運用をアピールする為、3月から街宣行動を行います。各構成組織においても、労使間で『雇止め防止』と『クーリング期間の悪用防止』の為にルール確認徹底をお願いします！

※2013年4月1日以降に締結した有期労働契約が5年を超えて更新された場合、有期契約労働者からの申し込みがあった場合に無期労働契約に転換するというルールです。有期契約労働者とは、契約社員、パートタイマー、アルバイト従業員、派遣社員のことです。



参照：厚生労働省「有期契約労働者の無期転換ポータルサイト」<http://muki.mhlw.go.jp/>より

『雇止め防止!!!』 『クーリング期間の 悪用防止!!!』



神津会長来る！！ 連合山形2018春季生活闘争勝利総決起集会及び

青年・女性委員会合同学習会が開催されます！

連合山形は2月14日に開催した第3回執行委員会において春闘方針を確立し、「すべての労働者の立場に立って働き方を見直そう！『底上げ・底支え』『格差是正』でクラシノソコアゲ！」のスローガンを掲げ、「働くことを軸とする安心社会」を実現するため、全力で闘うことを確認しました。

今春季生活闘争における闘う意思の結集と組織内外へのアピールを図る為、下記のとおり総決起集会及び春闘学習会が開催されます。構成組織からの多くの参加をお願い致します！

【2018春季生活闘争勝利総決起集会】

■第一部：デモ行進 ⇒3月10日（土）13：30出発（13：00山形市第二公園集合）

■第二部：総決起集会⇒3月10日（土）14：45～16：00「やまぎんホール」

（次第）◆開会：金子副会長（JAM）

◆主催者あいさつ：小口会長代行（県教組）

◆本部あいさつ：連合本部神津会長

◆情勢報告：設楽事務局長

◆決意表明：3産別1組織より

◆春闘課題アピール：青年・女性委員会

◆集会アピール採択：水戸副会長（交通労連）

◆閉会：井上副会長（電機連合）

◆団結ガンバロー：小口会長代行（県教組）



【2018春闘 女性委員会・青年委員会合同学習会】

■第一部：春闘学習会⇒3月10日（土）10：00～12：00※昼食付

（9：30山交ホール7階サンライズ中ホール受付）

■第二部：デモ行進 ⇒3月10日（土）13：30出発（13：00山形市第二公園集合）

■第三部：総決起集会⇒3月10日（土）14：45～16：00「やまぎんホール」

詳細は、連合置賜地協や加盟産別からの参加要請を確認してください

【編集後記】

「底上げ・底支え・格差是正」を実現する為の2018春季生活闘争がいよいよ始まりました。既に大手中央労組は提出を終え交渉に挑んでおり、3月中旬には一斉に回答が示され山場を迎えます。

いっぽう、地方における中小労組としては要求内容を確立させ、拡がる大都市との格差や社会保障への負担増解消に向けた闘いがこれから本格化します。

連合置賜地協としては、闘いの本格化を前に学習会と情報意見交換の場を設け要求書提出の重要性や取り巻く情勢分析を行い、構成組織の一助となる様取り組んで参りました。

今後は、春闘における賃上げの重要性と取り組みへの理解を求め、社会全体の運動とすべく連合山形と共に街宣行動を通じて世論喚起を進めて参ります。

これと並行し、破たんしたアベノミクスに成り代わる経済政策を国政に求める運動も進めながら、すべての働く仲間の処遇改善に向け、真摯で活発な議論による春闘勝利を全構成組織で勝ち取っていきましょう。

（事務局）